

◇あとがき◇

今年の夏も厳しい暑さが続いております。近年は小児入院患者の減少（少子化と特に小児科領域では外来管理可能な疾患の増加）しておりますが、夏休みだけは、外科手術でにぎやかになっているのではないのでしょうか？

さて、今回の特集テーマは「小児外科疾患の発生を考える」です。私自身、入局後に最初に直面した試練は、術前・術後カンファレンスでした。当時は心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科を含む「ナンバー外科」体制で、異なる視点からの鋭い質問が飛び交います。そのなかで、主任教授が若手に必ず投げかける質問がありました——「その疾患の原因は何ですか？」。

答えを探すなかで出会ったのが Gray らの『Embryology for Surgeons』（1972 年）でした。この本をきっかけに正常発生と形成異常の関係に魅了されました。やがて発生学は形態学的理解から分子生物学との融合へと発展し、形成異常のメカニズムが分子レベルで説明される時代を迎えています。小児外科疾患の多くは、正常発生の途絶や逸脱によって生じます。その途絶が起こる時期や部位によって多様な疾患像が現れ、関与する分子異常が複数の臓器形成に関わる場合は、共通の形成異常を併せ持つ症候群として認識されます。分子異常—形成異常—症候群という視点から、原因遺伝子の同定に至る例も少なくありません。

では、小児外科医にとって発生学の理解はどれほど必要なのでしょう。疾患の全体像を把握し、診断・治療方針を組み立てるうえで不可欠な「思考の土台」であると考えています。発生学は単なる学問的知識ではなく、患者の未来を見通すための指針でもあります。発生の流れを遡って病態を捉えれば、術前評価や家族への説明の説得力が増し、さらに遺伝学的検査や長期予後の予測にも繋がります。

本特集が、日々の診療のなかで「なぜこの疾患が生じたのか」をもう一步深く考えるきっかけとなり、小児外科医それぞれの臨床力と探究心を高める一助となれば幸いです。

（古田繁行）

本誌広告取扱い

文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1

本郷宮田ビル 5 階 TEL 03-3814-8541 (代)

メディカ・〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-9

アド 第1長谷川ビル2階 TEL 03-5776-1853 (代)

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は©東京医学社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に一般社団法人出版者著作権管理機構（TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

「小児外科」第 57 巻第 9 号（2025 年 9 月号）

特集 医工・産学連携

医工・産学連携の歩み……………渡井 有
医療機器承認制度と PMDA……………穴原 玲子
プログラム医療機器にまつわるアレコレ……………加藤健太郎
臨床工学領域における医工連携の歴史と

将来展望……………大石 義英
医工連携にかかる知的財産法の利活用……………佐々木通孝
看護と工学の融合が拓く次世代医療のかたち……………椿 美智博
小児外科医と起業……………林 健太郎
外科医が開発する術中 AI 診断……………小林 直
AI による術中臓器損傷認識支援……………松崎 博貴
より安全な腹腔鏡下小児鼠径ヘルニア手術を

目指して～手術器具の開発と臨床応用～……………江村 隆起
内視鏡手術トレーニングシミュレータ開発の

変遷……………福田 篤久
胎児再生医療研究における医工連携……………渡邊 美穂
臓器灌流保存装置を用いた小児分割肝移植……………石井 大介
鎖肛術後排便機能障害に対する新たな医療機器

開発への挑戦……………荒 桃子
神経芽腫悪性度予測マーカー……………天野 日出
小児内視鏡外科手術支援のための医工連携……………高澤 慎也
消化管神経叢の新規生体蛍光観察……………小池 勇樹
腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法（LPEC 法）に

おける新規医療器具の開発……………小坂 太一郎
腸瘻排液の自動持続注入システムの構築……………増本 幸二
先端吸引鉗子の開発……………櫻澤 信行
ガーゼ遺残を予防し触覚の欠如を支援する

蛍光ガーゼの開発……………田代 良彦

名誉編集委員

秋山 洋	石原 通臣	岩中 督
大沼 直躬	大谷 俊樹	角田 昭夫
土岐 彰	長島 金二	橋都 浩平
山崎 洋次	横森 欣司	北川 博昭
黒田 達夫	浮山 越史	金森 豊
越永 従道	世川 修	渡井 有
古田 繁行		

編集委員

小児外科

第 57 巻第 8 号

©2025 年 8 月 25 日発行

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

編集

小児外科編集委員会

発行

株式会社 東京医学社

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-5-16

URL <https://www.tokyo-igakusha.co.jp>

編集部 TEL 03-5810-1648 FAX 03-5810-1649

e-mail: shoge@tokyo-igakusha.co.jp

営業部 TEL 03-5810-1628 FAX 03-5810-1629

e-mail: hanbai@tokyo-igakusha.co.jp

2025 年前金予約購読料 1 年分 49,280 円（本体 44,800 円＋税 10%）

（小児内科・小児外科 合同増刊号を含む）

*送料は前金予約購読の方のみ弊社負担です